
第11回森のようちえん全国交流フォーラム2015in長崎・いさはや

開催要項

1. 趣 旨
デンマークやドイツで広がった「森のようちえん」（自然体験活動を基軸にした子育て・保育・乳幼児の教育の総称）は、我が国でも、平成17年から毎年、「森のようちえん全国フォーラム」等が開催されるなど、着実に広がりをみせています。
こうした中、幼児期の学校教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を進めていく「子ども・子育て支援制度」が、平成27年4月に本格スタートし、長野県では「信州型自然保育認定制度」が、鳥取県では「とっとり森・里山等自然保育認証制度」が創設されたりするなど、「森のようちえんの制度化」といった新たな展開が始まっています。
そこで、幼児教育・保育・子育て支援等に携わる実践者・行政関係者・研究者等、子育て中の保護者等、幼児教育等を学ぶ学生等が集い、「森のようちえん」に関する知識・技能の習得、幼児教育・保育・子育て支援のあり方や行政等による制度のあり方の議論、参加者相互の交流・交歓を通じたネットワークづくりをめざす「森のようちえん全国交流フォーラム 2015in 長崎・いさはや」を開催し、子どもたちと我が国の明るい未来につなげます。
2. テーマ
子どもに学ぼう 子どもと学ぼう～^{いさはや}諫早らしく 長崎らしく 九州らしく～
3. 期 日
平成27年11月21日（土）・22日（日）・23日（月・祝）
4. 会 場
国立諫早青少年自然の家（〒859-0307 諫早市白木峰町 1109-1）
諫早市こどもの城（〒859-0307 諫早市白木峰町 827-2）
5. 主 催
「森のようちえん全国交流フォーラム 2015in 長崎・いさはや」実行委員会
6. 共 催
森のようちえん全国ネットワーク、国立諫早青少年自然の家、
公益社団法人国土緑化推進機構、一般財団法人セブン-イレブン記念財団
7. 後 援
文部科学省、内閣府、林野庁（以上、予定）
長崎県、長崎県教育委員会、諫早市、
8. 協 賛
コールマンジャパン株式会社、株式会社モンベル（以上、予定）
9. 対 象
「森のようちえん」の実践者及び興味関心のある者
幼児教育・保育・子育て支援等の実践者・行政関係者・研究者、学生、青少年教育施設職員、自然体験活動団体や森林環境教育団体等のスタッフ

10. 定員 240名程度

11. 内容 受付 12:00～13:20

(1) 日程

【11月21日(土)】

時間	プログラム	内容
13:30～13:45	開会式	(1)実行委員長開会あいさつ 諫早市こどもの城館長 池田尚 (2)共催者あいさつ 公益社団法人 国土緑化推進機構 (3)来賓あいさつ 諫早市長 宮本明雄
13:50～14:20	オープニングトーク	「森のようちえんの今日まで」 森のようちえん全国ネットワーク運営委員長 内田 幸一
14:30～15:00	アイスブレイク	「どんな思いで参加？」いさはや実行委員会
15:15～16:45	特別講演	「幼児・自然・自己肯定感」 マザーアース・エデュケーション代表 松木 正
17:00～19:00	宿舎移動・休憩・入浴 (入浴可能時間 17:00～22:30)	
19:00～21:00	夕食・情報交換会	
21:00～23:00	フリータイム・就寝	

<託児>1歳～2歳を対象にした託児を、全日程・講座開催時間帯のみ実施

<3歳～小学生向けプログラム>「野あそび」13:30～16:45

【22日(日)】

時間	プログラム	内容		
6:30～7:30	早朝オプション	<input type="checkbox"/> 実施者公募・自由参加		
7:15～7:30	朝のつどい	<input type="checkbox"/> 自由参加		
7:30～8:50	朝食			
9:00～9:50	フリー分科会 I	<input type="checkbox"/> 実施者公募・自由参加		
10:00～12:00	分科会・WS I	子ども	自然	運営
		① ② ③	④ ⑤	⑥ ⑦ ⑧
12:00～13:30	昼食			
13:30～15:30	分科会・WS II	子ども	自然	運営
		⑨ ⑩	⑪ ⑫ ⑬	⑭ ⑮ ⑯
15:30～16:00	移動・休憩			
16:00～18:00	分科会・WS III	子ども	自然	運営
		⑰ ⑱ ⑲	⑬ ⑳	㉑ ㉒ ㉓
18:00～19:30	夕食			
19:30～20:30	フリー分科会 II	<input type="checkbox"/> 実施者公募・自由参加		入浴 18:00～22:30
20:30～23:00	フリータイム・就寝			

<3歳～6歳向けプログラム>「森のようちえん」10:00～18:00

<小学生プログラム>「多良山系ディキャンプ」9:00～18:00 ※親子参加 OK

【23日(月)】

時間	プログラム	内容
6:30～7:30	早朝オプション	<input type="checkbox"/> 実施者公募・自由参加
7:15～7:30	朝のつどい	<input type="checkbox"/> 自由参加
7:30～8:50	朝食	
9:10～11:00	リレートーク	「森のようちえんの今日までそして明日から～制度化と自治体の施策～」 ①全国ネットワーク運営委員長・内田 幸一、②長野県次世代サポート課・竹内 延彦、③鳥取県智頭町長・寺谷 誠一郎、④文部科学省青少年課・水澤 豊子、⑤諫早市こどもの城・池田 尚、 司会：諫早自然の家・小林 真一 (五十音順)
11:20～12:00	クロージング	「ふりかえり」 諫早市こどもの城スタッフ、三味線奏者・FMいさはやパーソナリティ 内田 光

12:00～12:20	閉会式 (解散)	①全国ネットワーク運営委員長挨拶 内田 幸一 ②次年度開催地挨拶
12:20～13:20	昼食 (希望者)	□カレーライス 300 円 (oneメニュー)
13:30～14:30	全国ネットワーク総会	

＜3 歳～小学生向けプログラム＞「野あそび」9:10～12:20

※プログラムは、今後、変更することがあります。

(2) 分科会・WSのタイトルと講師 (講：講義・講話, 実：実習, ト：トーク)

【 I 10:00～12:00】

分野	No.	タイトル	講師 (所属)
子ども	①	幼児期における豊かな自然体験活動のすすめ (講)	室井 修一 (国立磐梯青少年交流の家)
	②	冒険教育プログラム～プロジェクトアドベンチャー～ (実)	吉原 裕介 (諫早市こどもの城) 中村 匡寛 (国立諫早青少年自然の家)
	③	「待つ」ってなあに (講)	利根 清子 (自然スクール TOEC)
自然	④	身近な虫たちの暮らしと不思議 (講・実)	新開 孝 (昆虫写真家)
	⑤	自然とつながる土遊び～びかびかどろだんごと土でお絵かき (実)	千綿 由美, 鈴木育子 (つちのや)
運営	⑥	そもそも森のようちえんとは (講)	内田 幸一 (森のようちえん全国ネットワーク)
	⑦	国が支えている笑顔満開のデンマーク森のようちえん (講)	中能 孝則 (ひの社会教育センター)
	⑧	森のようちえん 10 年が経ちました! (講)	小林 成親 (やまの遊び舎 はらぺこ) 小菅 江美 (森のようちえんてくてく)

【 II 13:30～15:30】

分野	No.	タイトル	講師 (所属)
子ども	⑨	野生保育のススメ～野生度調査・野生保育の理論と実践～ (講)	濱崎 幸夫 (尚綱 (しょうけい) 大学)
	⑩	子どもに伝えるべき“森とともにある素敵なライフスタイル” (講)	佐々木 豊志 (くりこま高原自然学校)
自然	⑪	Ki・Ko・Ri～林業体験～ (実)	(林業女子会@長崎)
	⑫	菌ちゃんに学ぶ 15 歳までの元気体づくり～免疫力を上げる食のあり方～ (講・実)	中尾 慶子 (大地といのちの会)
	⑬	火のワーク～マッチ 1 本から育てる火～ (実) ※II・III連続	福藪 恵子 (諫早市こどもの城)
運営	⑭	森のようちえんってどうやってつくるの?～立ち上げと親との関係づくり～ (ト)	野沢 俊索 (ネイチャーマジック) 浅井 智子 (森のわらべ多治見園)
	⑮	体験を家でもやってほしい! 今、話題の「家庭たいけん教育」の秘密を明かします (講)	佐藤 陽平 (ひとねる家庭たいけん教育)
	⑯	森に行かない母ちゃんたちを口説け (講)	池田 尚・野中邦浩 (諫早市こどもの城) 地元の母親

【Ⅲ 16:00~18:00】

分野	No.	タイトル	講師（所属）
子ども	⑰	迷いませんか？待つべきことと、待ってはいけないこと（講）	佐々木 豊志（くりこま高原自然学校） 中島 久美子（森のようちえんピッコロ）
	⑱	ボディカウンセリング（実）	志賀 誠治（人間科学研究所）
	⑲	森のようちえんと音楽～森に溢れる場の力と子どもの育ち（講）	野沢 俊索（ネイチャーマジック） 小林 直美（森のたんけんたい）
自然	⑬	火のワーク～マッチ 1 本から育てる火～（実）※Ⅱ・Ⅲ連続	福藺 恵子（諫早市こどもの城）
	⑳	8～13 歳までの子どもたちとサバイバル 火おこし・魚突きで糧を得る鹿兒島の無人島合宿生活（講）	テンダー（ヨホホ研究所）
運営	㉑	幼児・青少年期に生きる直感力を養うヒヤリハット71の体験（講）	中能 孝則（ひの社会教育センター）
	㉒	森のようちえんの社会化と行政の関わりについて（講）	小林 成親（山の学び舎はらぺこ） 小菅 江美（森のようちえんてくてく） 竹内 延彦（長野県次世代サポート課）
	㉓	水辺の安全管理プラスファーストエイドのいろは（講）	宮本 博文（長崎ファーストエイド研究会）

幼児向けプログラム	野あそび	22	森のようちえん	実行委員
小学生向けプログラム	(21日・23日)	日	多良山系ディキャンプ	

(3) 各講座の紹介

【オープニングトーク】

タイトル：「森のようちえんの今日まで」
講師：森のようちえん全国ネットワーク運営委員長 内田 幸一（うちだ こういち）
「森のようちえん」の始まりから今日までの歩みを語ります。実施するにあたってどんな苦労があったのか、どんな喜びを得られたのか。そして、そもそも「森のようちえん」とは、どんなことなのかをお伝えします。

【アイスブレイク】

タイトル：「どんな思いで参加？」
講師：第11回森のようちえん全国交流フォーラム2015in長崎・いさはや実行委員
フォーラムには、「森のようちえん」を既に実践されている方や興味関心はあるが、実践されていない方など、様々な方が参加されています。そこで、どんな思いで参加しているのかを話し合うことを通して、参加者同士が仲良くなりましょう。

【特別講演】

タイトル：「幼児・自然・自己肯定感」
講師：マザーアース・エデュケーション代表 松木正（まつき ただし）
幼少期からの自然体験の重要性を考えるにあたり、関西や長崎をはじめ、中学生や高校生など多くの思春期の子どもたちとの取組の中で見えてきたことを語ります。

【分科会・WS】

①タイトル：「幼児期における豊かな自然体験活動のすすめ」
講師：国立磐梯青少年交流の家 室井 修一（むろい しゅういち）
スキヤモンの発達曲線によると神経系の発達は、4歳～6歳で成人のほぼ90%が完成します。この時期に豊かな体験活動の環境を設定することはとても大切です。新潟の青少年教育施設や特色ある保育園の事例を基に、参加者の皆さんと情報を共有しましょう。

②タイトル：「冒険教育プログラム～プロジェクトアドベンチャー～」

講師：諫早市こどもの城 吉原 裕介（よしはら ゆうすけ）、
国立諫早青少年自然の家 中村 匡寛（なかむら まさひろ）

アメリカの教師らの実践から始まったとされる「プロジェクト・アドベンチャー」という教育手法をご存知ですか？ 学校・地域・企業・スポーツ・医療などの分野で、自然体験のみならず、対人関係や課題解決の場面でも活用されています。国立諫早青少年自然の家の専門コースを使って体験します。未体験の方の参加をお待ちしています。

③タイトル：『待つ』ってなあに」

講師：自然スクールTOEC 利根 清子（とね すがこ）

森のようちえん実践者の多くが大切にしている「待つ」ということ。片や、日常生活の中で難しいのが「待つ」ということ。徳島の自然スクールでの実践のお話しを通して、みんなで考えましょう。

④タイトル：「身近な虫たちの暮らしと不思議」

講師：昆虫写真家 新開 孝（しんかい たかし）

子どもたちにとって、自分の手で触れられる身近な生き物である「虫」。私たちは、そんな虫たちのことを一体どのくらい知っているのでしょうか？ もっともっと虫を身近に感じられるように、身近にいる昆虫の不思議な世界へ、宮崎に住んでいる新開さんとともに旅してみましよう。前半は講義、後半は屋外に出て観察します（雨天決行、カップ持参）。

⑤タイトル：「自然とつながる土遊び～ぴかぴかどろだんごと土でお絵かき」

講師：つちのや 千綿 由美（ちわた ゆみ）、鈴木 育子（すずき いくこ）

「子どもが育つには、水と土があったら、他に何もいらぬ」な～んて言った人がいました。佐賀県で実践しているNPOの取組を体験しながら、土にふれ、もっと土を知り、土を感じましよう。

⑥タイトル：「そもそも森のようちえんとは」

講師：森のようちえん全国ネットワーク委員会委員長 内田 幸一（うちだ こういち）

日本では自然環境の中での幼児教育や保育を、「森のようちえん」と呼びそのスタイルは様々です。園舎を持つ「ようちえん」も、持たない「ようちえん」もあります。

スタイルはいろいろですが、共通しているのは自然環境の中での幼児教育と保育です。そして多くの「森のようちえん」は、意図的に大人の考えや考え方を強要せず、子どもが持っている感覚や感性を信じ、そして、引き出すような関わり方をしています。

あわせて、「森のようちえん」で、日常的に自然との関わりを持っている子ども達は、将来的にサステナビリティ（持続可能性）について期待出来る子ども達です。これを確実にしていくための話しなども併せて行います。

⑦タイトル：「国が支えている笑顔満開のデンマーク森のようちえん」

講師：ひの社会教育センター 中能 孝則（なかよく たかのり）

「森のようちえん」の発祥の地デンマークの森のようちえんの子どもたちは、自分で見つけた遊びで、納得いくまで遊び切ります。そして、スタッフは見守りながら一緒に活動しています。

国（デンマーク）が期待している子ども像や、それを支えているデンマークの子育ての基本スタンス、デンマークの民主主義の成熟度などについて、スライドを交えながらお伝えします。

⑧タイトル：「森のようちえん10年が経ちました！」

講師：山の学び舎 はらぺこ 小林 成親（こばやし なりちか）
NPO法人 緑とくらしの学校 森のようちえんてくてく 小菅 江美（こすげ えみ）

「森のようちえん」をはじめて10年が経ったというメンバーが増えてきています。集まれば、「いろいろあったねー」と語ることがたくさんあります。

10年の間の苦労話やここだけの話、運営面の話など、10年続けてきた「経営」という視点でお話しします。

⑨タイトル：「野生保育のススメ～野生度調査・野生保育の理論と実践～」
講師：尚綱大学（しょうけいだいがく） 濱崎 幸夫（はまさき さちお）
「野生」って何だろう。子どもたちの自然体験活動の調査とはまた違う子どもたちの「野生度」について調べてみました。熊本での実践を通して見えてきたものを一緒に考えましょう。

⑩タイトル：「子どもに伝えるべき“森とともにある素敵なライフスタイル”」
講師：くりこま高原自然学校 佐々木 豊志（ささき とよし）
「森のようちえん」の活動フィールドを通じて、今まで知らなかった、次世代へ伝えなければならない大切な森の話から始めます。“森とともにある素敵なライフスタイル”を子どもたちと一緒に作り、地域の自然と共存し、持続可能な平和で豊かな暮らしを創造するために、一步を踏み出しましょう。

⑪タイトル：「K i ・ K o ・ R i ～林業体験～」
講師：林業女子会@長崎
女子会は、お食事会や広島カーブだけじゃないんです。長崎でも林業の世界に女子たちが登場し、活躍しています。私たちが取り組んでいる森をつくり整備する活動を一緒に体験してみましょう。

⑫タイトル：「菌ちゃんに学ぶ 15 歳までの元気体づくり～免疫力を上げる食のあり方～」
講師：大地といのちの会 中尾 慶子（なかお けいこ）
野菜って、捨てる所なんかないのです。野菜って、自然に育てられるのです。そうやって給食を出してみたら、なんと風邪をひく子どもたちが減ったという保育園もあります。生ゴミをリサイクルしながら土を作る循環型の農業の入り口を、一緒に体験してみましょう。

⑬タイトル：「火のワーク～マッチ1本から育てる火～」
講師：諫早市こどもの城 福菌 恵子（ふくぞの けいこ）
火を熾す方法は様々ですが、今回使うのはマッチだけ。小さな火の赤ちゃんを大人の火に育てるプロセスは、まるで子育てのよう。常に変化し続ける生き物のような「火」にとことん触れながら、たき火の初歩的な技術と、奥深さを感じてみましょう。1人ひとつずつ「自分の火」を育てます。現場で火を扱う際のヒントになりますように（この分科会は2コマ連続での参加となります）。

⑭タイトル：「森のようちえんってどうやってつくるの？～立ちあげと親との関係づくり～」
お名前・所属：ネイチャーマジック 野沢 俊索（のざわ しゅんさく） 自然育児 森のわらべ多治見園 浅井 智子（あさい ともこ）
子どもへの寄り添い方や保育の在り方などのぶっちゃけトーク♪ 「森のようちえん」の立ち上げや、親御さんとの関係作りなどのテーマも含みます。 野沢と浅井さんのトークセッションで、日々の保育を話題に展開します。会場からの質問を受けながら、本流の話へと引き込んでいきたいと思ひます。

⑮タイトル：「体験を家でもやってほしい！今、話題の『家庭たいけん教育』の秘密を明かします！」
講師：ひとねる家庭たいけん教育 佐藤 陽平（さとう ようへい）
「森のようちえん」に参加しているから、「森のようちえん」を実施しているから、もう大丈夫。そんなことはありませんね。昔から、家庭・地域・学校の連携なんて言われますよね。子どもにとって最初に出会う社会である家庭での「たいけん」について、いっしょに考えましょう。

⑩タイトル：「森に行かない母ちゃんたちを口説け」

講師：諫早市こどもの城 池田 尚（いけだ ひさし）、野中 邦浩（のなか くにひろ）、地元の母親

「森のようちえん」をはじめ体験活動・学習の弱点は、「体験していない人に伝わらない（伝わりにくい）」ということ。私たちの活動を展開するうえで避けて通ることのできない「人に説明する」ということを、森に行かない人を相手にして実際に説明体験してみましょう。さあ、どうしたら口説けるかな？

⑪タイトル：「迷いませんか？待つべきことと、待ってはいけないこと」

講師：くりこま高原自然学校 佐々木 豊志（ささき とよし）

森のようちえんピッコロ 中島 久美子（なかじま くみこ）

「大人 or 保護者」の子どもとの関わり方を考えましょう。子どもたちの何を、どのように育むために、どのように関わるのか？ 子育て・保育・幼児教育のベースになる関わり方（指導者の哲学）と「森のようちえん」だからこそ生かすべき自然環境（学びの場の特徴）を深く考えましょう。

⑫タイトル：「ボディカウンセリング」

講師：人間科学研究所 志賀 誠治（しが せいじ）

心の状態は、身体に表れます。思いをうまく言葉で表現できずとも、身体に触れ、身体の状態を知ることによって、子どもたちの今の気持ちを感じることができます。広島で実践しているワークショップを体験しましょう。

⑬タイトル：「森のようちえんと音楽 ～森に溢れる場の力と子どもの育ち」

お名前・所属：ネイチャーマジック 野沢 俊索（のざわ しゅんさく）

森のたんけんたい 小林 直美（こばやし なおみ）

音楽を切り口に、子どもとの関わりに言及していき、「ああ、やっぱり森のようちえんらしいなあ」と思うような音楽の使い方や、やりかたを示します。

単に「歌のネタ会」や「取り入れ方の事例発表」ではなく、育ちと関わりに言及していきます。

⑭タイトル：「8～13歳までの子どもたちとサバイバル 火おこし・魚突きで糧を得る鹿児島島の無人島合宿生活」

講師：ヨホホ研究所 テンダー

鹿児島で実践している無人島キャンプからのお話です。「その辺」にあるものの中には、生活に使えるものがたくさんあることに気付くでしょう。皆さんの「森のようちえん」の活動のヒントになることを、「その辺のもの」で生活できることも交えて話します。

⑮タイトル：「幼児・青少年期に生きる直感力を養うヒヤリハット71の体験」

講師：ひの社会教育センター 中能 孝則（なかよく たかのり）

野外活動につきものの「ヒヤリハット」は、指導者にとって心配事の一つとして、常に頭から離れることはありません。そして、「ヒヤリハット」の段階で確認し、どうすればよいかの対策を講じれば、それ以上のハザードにつながる可能性は少なくなると言われています。

そこで、逆も真なる考え方で、様々な「ヒヤリハット」を体験することで、大きな「ヒヤリハット」を回避できる力が生まれてくると考えています。今回は、私たちが小さいときに体験した「ヒヤリハット」を整理して、それぞれの現場でどのように活かしていくかを話したいと思います。

⑯タイトル：「森のようちえんの社会化と行政との関わりについて」

講師：山の学び舎 はらぺこ

小林 成親（こばやし なりちか）

NPO 法人 緑とくらしの学校 森のようちえんてくてく 小菅 江美（こすげ えみ）

長野県次世代サポート課

竹内 延彦（たけうち のぶひこ）

「森のようちえん」と行政との関わりが広がりつつあります。それはどんなカタチの関わりなのでしょう。そして、社会化はどのように進んでいくのでしょうか。現状を伝え合いながら皆で考えていきたいと思っています。

②③タイトル：「水辺の安全管理プラスファーストエイドのいろは」
講師：長崎ファーストエイド研究会 宮本 博文（みやもと ひろふみ）
多くの「森のようちえん」では、水の活動を実施していると思います。安全対策は「ここまでやったら大丈夫」というものはありません。水辺の活動を行う際の安全の考え方や応急処置についてお伝えします。

【リレートーク】

タイトル：「森のようちえんの今日まで、そして明日から～制度化と自治体の施策～」
講師：森のようちえん全国ネットワーク運営委員長 内田 幸一（うちだ こういち）、長野県次世代サポート課 竹内 延彦（たけうち のぶひこ）、鳥取県智頭町長 寺谷 誠一郎（てらたに せいいちろう）、文部科学省青少年課 水澤 豊子（みずさわ とよこ）、諫早市こどもの城 池田 尚（いけだ ひさし）
「森のようちえん」を、今後どのように発展させていくのか。国、県、市町、民間の立場から意見を出し合い、方向性や可能性を探ります。

【クロージング】

タイトル：「ふりかえり」
講師：諫早市こどもの城スタッフ、 三味線奏者・FMいさはやパーソナリティ 内田 光（うちだ ひかり）
フォーラムに参加して得たことや感じたこと、あるいは、新たに沸き起こった疑問などを、参加者どうして話し合います。

12. 参加費・食事

（１）参加費一覧

	参加形態	参加費	食費等	情報交換会費	合計
大人	全日程（ネットワーク会員・一般）	11,000 円	2,685 円	3,000 円	16,685 円
	土曜日・日帰り（情報交換会参加）	3,000 円	50 円	3,000 円	6,050 円
	土曜日・日帰り	3,000 円	50 円	—	3,050 円
	日曜日・日帰り	6,000 円	650 円	—	6,650 円
	月曜日・日帰り	3,000 円	50 円	—	3,050 円
小学生	全日程	3,000 円	2,385 円	600 円	5,985 円
	土曜日・日帰り（情報交換会参加）	1,000 円	50 円	600 円	1,650 円
	土曜日・日帰り	1,000 円	50 円	—	1,050 円
	日曜日・日帰り	1,000 円	550 円	—	1,550 円
	月曜日・日帰り	1,000 円	50 円	—	1,050 円
幼児	全日程	1,500 円	1,885 円	無料	3,385 円
	土曜日・日帰り	500 円	50 円	—	550 円
	日曜日・日帰り	500 円	450 円	—	950 円
	月曜日・日帰り	500 円	50 円	—	550 円

- ① 大人は中学生以上、幼児は3歳から6歳の未就学児です。
- ② 小学生及び幼児の「参加費」は、小学生用及び幼児用プログラムへの参加費です。
- ③ 食費等には、食事代、シーツクリーニング代、傷害保険料が含まれます。
- ④ キャンセル料については、参加決定通知を送付する際に、併せて連絡します。

（２）食費等について

- ① 全日程参加には、日曜日の朝食・昼食・夕食と月曜日の朝食が含まれます。
食費等の内訳は、以下の通りです。

	食事代			シーツクリーニング代	傷害保険料	
	朝食	昼食	夕食		2泊3日	日帰り・1日
大人(中学生以上)	400円	600円	700円	200円	385円	50円
小学生	350円	500円	600円	200円	385円	50円
幼児	300円	400円	500円	無料	385円	50円

② 21日(土)の情報交換会は夕食を兼ねています。なお、幼児の情報交換会費(夕食代)は無料です。

③ 22日(日)の日帰り参加には、昼食が含まれます。

④ 23日(月)の昼食は、カレーライス(300円当日支払い)を用意します(希望者のみ)。

(3) 食事について

① 食事はバイキング方式です。

② 配膳時にアレルギー表示を行います。特別食の準備はしません。

(4) 傷害保険の補償内容について(全ての対象者)

死亡・後遺障害	1,000万円
入院	5,000円/日
通院	2,500円/日

13. JR 諫早駅～諫早自然の家バス運行について

(1) 無料送迎バスの運行

① 乗車・降車場所 : JR 諫早駅西口ロータリー

※JR 諫早駅改札口(東口1ヶ所のみ)を出て左側の地下通路を通り、反対側(西口)に出ます。

② 時刻

	往き(駅発)	帰り(自然の家発)
21日(土)	①便 12:00 ②便 12:30	
22日(日)	①便 8:00	①便 18:30
23日(月)	①便 8:00	①便 12:50 ②便 13:30 ③便 15:00

(2) 公共交通機関(長崎県営バス)

① 「諫早駅前県営バスターミナル」(JR 諫早駅を出て右側・信号の先)から、諫早自然の家までのバスが運行しています。

② 時刻 バスターミナル発 7:15(自然の家着 7:44), 16:30(自然の家着 16:59)
諫早自然の家発 7:50(ターミナル着 8:19), 17:31(ターミナル着 18:10)

③ 料金 片道 480円

(3) タクシー

① JR 諫早駅から諫早自然の家までは、約13キロメートルです。

② 料金 3,300円～3,700円 程度です。

③ タクシーの台数は十分にあります。

14. 参加申込

(1) 申込方法 ホームページ内専用申込フォームからの申込みとなります。

(2) 開催告知 平成27年7月初旬

- (3) 募集開始 全日程参加（ネットワーク会員）平成 27 年 9 月 9 日（水）※予定
 全日程参加（一般） 9 月 16 日（水）※予定
 日帰り参加 9 月 23 日（水）※予定
- (4) 応募締切 平成 27 年 10 月 18 日（日） ※ただし、定員になり次第、締め切ります。

(5) 参加決定

- ① 先着順とします（参加決定及び二次案内を送付します）。
- ② 「分科会・WS」は事務局で調整・決定します。

(6) 早朝オプション・フリー分科会

- ① 早朝オプション・フリー分科会の開設希望は、参加申込時に取ります。
- ② 早朝オプション・フリー分科会開設の可否は、実行委員会が調整・決定し、申込者に連絡します。
- ③ 早朝オプション・フリー分科会の内容は、参加者に、参加決定通知の際、伝えます。
- ④ 早朝オプション・フリー分科会への参加については、フォーラム当日に希望を募り、調整・決定します。

15. 個人情報等について

(1) 個人情報

申し込み時に取得した個人情報は、本大会に関わる通知及び「森のようちえん全国ネットワーク」からの情報提供時に使用し、第三者への公開及び譲渡は一切しません。

(2) カメラ・ビデオ撮影

- ① 基調講演・分科会での撮影及び音声の録音は、原則として禁止とします。
- ② フォーラムにおける特定の個人への撮影は、本人の了解を得てください。
- ③ スナップ写真の撮影は可とします。しかし、自分以外の者が写った写真を、SNSに掲載する際は、その者の了解を得てください。
- ④ 報告書作成のため、全体会や分科会等で、スタッフがスナップ写真を撮影し、掲載することがあります。
- ⑤ 新聞やテレビ等の報道機関や雑誌等の取材が入る可能性があります。撮影されたくない方は、取材者に直接その旨を伝えてください。

問合せ先

国立諫早青少年自然の家 フォーラム担当 中村 匡寛（なかむら まさひろ）

上戸 正仁（かみと まさひと）

（「森のようちえん全国交流フォーラム 2015in 長崎・いさはや」実行委員会事務局）

〒859-0307 長崎県諫早市白木峰町 1109-1

TEL 0957-25-9111 FAX 0957-25-9115 E-mail isahaya@niye.go.jp

HP

[諫早自然の家](#)

[検索](#)

[森のようちえん全国フォーラム](#)

[検索](#)